

6年歴史「スポット見学」の展示資料概要

与野郷土資料館

スポット見学とは、45分間の社会科授業の中で内容を絞り、単発の15分間に設定した見学となります。

① 狩りや漁をしていた時代（縄文時代）教科書 P78・79【6月】

- ・大戸貝塚（大戸1丁目）の貝の展示
- ・イノシシの頭骨（側ヶ谷戸貝塚：大宮区三橋4丁目）の展示
- ・石鏃（矢じり）や土錘（漁網のおもり）の展示
- ・磨製石器（砥石で磨いた木を削る石斧）の展示
- ・丸木舟と櫂（南鴻沼遺跡：大戸1丁目）の展示
- ・縄文土器（形により使い分け）煮る・貯蔵する・盛る・液体を入れる



② 米づくりが広まった時代（弥生時代）教科書 P85・86【6月】

- ・弥生土器の展示：厚さが薄い、実用的（縄文土器と比較）
諏訪坂遺跡：上峰
- ・権力者の弥生時代の墓（方形周溝墓）
上太寺遺跡：大戸5丁目
古墳より小規模な墓
- ・副葬品（ガラス玉、弥生土器）の展示



③ 古墳がつくられた時代（古墳時代）教科書 P88・89【6月】

- ・古墳のあった場所：かつての荒川（現在の鴨川）が流れていた近くの台地上
- ・側ヶ谷戸古墳群11号墳（円墳 大宮区三橋4丁目）の副葬品の展示：埴輪
その他、勾玉、太刀、赤い色付けされた土器が出土



鉄製農耕具が広まり、水田が開発され、米の生産が増えて
統率する豪族が現れた

④ 大仏がつくられた時代（奈良時代～）教科書 P100・101【7月】

- ・与野にも仏教が伝えられた証拠（宿宮前遺跡：桜区宿）①螺髪（仏の頭髮の形）の展示
- ・他にも証拠が・・・②「寺」の文字が書かれた土器の展示
- ③寺院に使われた瓦の展示
- ④蔵骨器（火葬した骨を納める器）の写真 身長150cmの女性



⑤ 武士の政治が始まった時代（鎌倉時代）④と関連する内容 教科書 P119【9月】

- ・鎌倉時代は新しい仏教も広まった時代
与野の寺：円乗院（当時は桜区道場に）、妙行寺（大カヤ）、長伝寺が建てられる
- ・仏教を広めるために作られた絵巻物「融通念仏縁起絵巻」の展示
歴史上初めて「与野」という地名が記された資料
その絵巻物の内容は、「お話の内容は、正嘉年間の頃に疫病が大流行した。与野郷の名主が仏教を信仰し、家の人にも勧めていた。信仰している者の名前を名簿に書き、道場に置いておいた。その夜、夢に疫病神が家に押し寄せ、その名簿を提出させ、判を押した。しかし、名簿に記入していなかった娘は病死してしまった。」というもの。



⑥ 江戸時代の与野本町通り（江戸時代）教科書 P160・161【10月】

- ・「与野町絵図」の展示 与野本町通り（脇街道）
（分岐・円乗院・蔵造り・氷川神社）
「道の左右つらねたること あたかも都下の町に似たり」 市場の町として栄えた
与野：304軒 浦和：208軒 大宮：200軒



⑦ 与野の文化人（江戸時代）教科書 164【11月】

- ・ 稲垣田龍：天文暦学者 新しい西洋の天文学を取り入れた
鈴谷村名主 武道家
「地転新図付属天文図」の展示（地動説に基づき中央に太陽が描かれている）
- ・ 西澤曠野：儒学者 商人（質屋）
「西澤曠野画像賛」の展示
「与野の聖人」困っている人や病人のために古着や薬を備えた
- ・ 鈴木荘丹：俳人 元は医者
「鈴木荘丹自画自筆文」の展示
「与野八景句集」の展示
師匠の古希祝いのために弟子達が風景画と添え句を載せた
- ・ 正野友三郎：和算学者 算学塾を開き、算学書を書き残した
円阿弥村名主 円阿弥万作踊りの創始者
「正野友三郎一門奉納の算額」の展示
円の直径を求める問題文・計算方法・答え、門人の名前が記されている
円阿弥の日枝神社に奉納



3・4年歴史「スポット見学」展示資料の概要

与野郷土資料館

スポット見学とは、45分間の社会科授業の中で内容を絞り、単発の15分間に設定した見学となります。

【3年】

① さいたま市の移り変わり 副読本「わたしたちのさいたま市」P102～115〔2月〕

プロジェクションマッピング「与野の大地」(映像資料)の視聴

- ・与野町：市場の町（明治時代）
- ・与野市：国道17号開通、自動車の町、埼京線開通（昭和時代）
- ・さいたま市：3市合併、さいたま新都心の誕生、さいたまスーパーアリーナの建設（平成時代）
- ・「埼京線開通記念の電車ヘッドマーク」の展示
- ・「与野のあゆみ」の展示

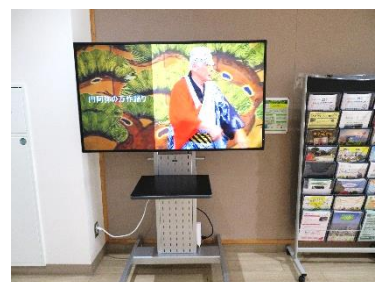


【4年】

① 古くから残されているもの 副読本「わたしたちのさいたま市」P178・179〔10月〕

大型モニター「与野のお祭り」(映像資料)の視聴

- ・与野夏祭り：7月中旬 300年間続いている 神輿が上町氷川神社に集結
- ・円阿弥の万作踊り：9月の敬老会（昔は村祭り）で 明治の初め頃から豊作・豊年を祈る踊り 市指定無形民俗文化財
- ・一山神社冬至祭：12月の冬至 1年間の穢れを祓い、来る年の無病息災、家内安全を願い、お供えした柚子を火に投げ入れて「火渡り」 市指定無形民俗文化財



② 鴻沼の開発 副読本「わたしたちのさいたま市」P194・195〔11月〕

- ・井沢弥惣兵衛 見沼の開発2年後に同じやり方で開発
当初は見沼の開発と同時に工事をやる予定だった
- ・高沼用水 見沼代用水西縁から取水 東縁・西縁から鴻沼川へ排水
- ・「与野領落合村絵図」の展示：1694年 新田開発前の「高沼」を描く
- ・「鈴谷村絵図」の展示：年未詳 新田開発後の「高沼新田」を描く



③ 郷土の発展につくした人々 副読本「わたしたちのさいたま市」P197〔12月〕

- ・武井武（1899～1992）大戸生まれ フェライトの発明 中央区役所に銅像
文化功労者表彰（1978） 与野市名誉市民顕彰（第1号） 与野市教育の振興
- ・「フェライト」の展示 （主に酸化鉄を焼き固めできた永久磁石）
3年理科で学習した鉄の磁石とは違う磁石
- ・「フェライトの利用されている物」の展示

